

諮問日：平成30年10月4日（平成30年度（最情）諮問第46号）

答申日：平成31年3月15日（平成30年度（最情）答申第78号）

件名：判事等の現在員を調べた際の文書の不開示判断（不存在）に関する件

答 申 書

第1 委員会の結論

「平成30年1月16日時点の判事の現在員が1999人であり、判事補の現在員が819人であることを最高裁判所が調べた際に作成し、又は取得した文書」（以下「本件開示申出文書」という。）の開示の申出に対し、最高裁判所事務総長が、本件開示申出文書は作成し、又は取得していないとして不開示とした判断（以下「原判断」という。）は、妥当である。

第2 事案の概要

本件は、苦情申出人からの裁判所の保有する司法行政文書の開示に関する事務の取扱要綱（以下「取扱要綱」という。）記第2に定める開示の申出に対し、最高裁判所事務総長が平成30年9月7日付けで原判断を行ったところ、取扱要綱記第11の1に定める苦情が申し出られ、取扱要綱記第11の4に定める諮問がされたものである。

第3 苦情申出人の主張の要旨

本件開示申出文書が本当に存在しないか不明である。

第4 最高裁判所事務総長の説明の要旨

最高裁判所においては、毎年12月1日現在の判事及び判事補の現在員を算出しており、12月1日以外の基準日の現在員を算出する必要がある場合には、直近に算出した12月1日時点の数値をもとに、同日以降の任官者数、退官者数等を集計して算出するところ、平成30年1月16日時点の現在員の算出に当たっても同様の方法を取ったことから、その過程で司法行政文書を作成し、又は取得していない。

第5 調査審議の経過

当委員会は、本件諮問について、以下のとおり調査審議を行った。

- ① 平成30年10月4日 諮問の受理
- ② 同日 最高裁判所事務総長から理由説明書を収受
- ③ 同年12月21日 審議
- ④ 平成31年2月22日 審議

第6 委員会の判断の理由

- 1 最高裁判所事務総長の上記説明によれば、最高裁判所においては、毎年12月1日現在の判事及び判事補の現在員を算出しており、12月1日以外の基準日の現在員を算出する必要がある場合には、直近に算出した12月1日時点の数値をもとに、同日以降の任官者数、退官者数等を集計して算出するところ、平成30年1月16日時点の現在員の算出に当たっても同様の方法を取ったことから、その過程で司法行政文書を作成し、又は取得していないとのことであり、このような説明の内容が不合理とはいえない。そのほか、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していることをうかがわせる事情は認められない。

したがって、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められる。

- 2 以上のとおりであるから、原判断については、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められるから、妥当であると判断した。

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高橋 滋

委員 久保 潔

委員 門口 正 人